

## 平成30年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果

大 学 名	東京藝術大学	タイプ	A
事 業 名	日米ゲームクリエイション共同プログラム - メディア革新時代の新しいアーティスト育成 -		
海 外 の 相 手 校	南カリフォルニア大学		

### 〔評価コメント〕

本事業計画は、総合芸術大学としての特性を活かし、既に交流実績のある南カリフォルニア大学との連携協力を通じて、ゲームクリエイションに注目したメディア革新時代における国際共同プログラムを展開しようとするもので、独自性と実現可能性の高い取組である。育成する人材像についても、異文化理解度、最新技術の活用、未来志向の課題解決力、芸術的表現を備えた新時代のメディアアーティストとして具体的に描かれており、大学院映像研究科が有するアニメーション・映画・メディア映像の3専攻から教員・学生を募り、産業界との連携を盛り込んで実施しようとしている点は特徴的である。

プログラムの内容は、初年度のパイロットプログラムに続き長期制作コースと短期集中コースから成り、いずれもオンライン環境と親和性の高いメディア芸術の教育や制作活動を、COIL 型教育と実際の渡航を組み合わせ自国内の学習では得ることのできない多角的な学習を通じて、「日米文化交流の強化」と「日本型メディア教育の強化と輸出」、並びに教育・ビジネス・福祉等多様な分野における「より良い社会の実現」を目指すものである。メディアの持つ多様な機能に注目し、日米間の架け橋となる人材やリーダーの育成を幅広い観点から計画しているものと言える。

一方で、目標とする派遣・受入数が毎年10名程度である点は、少数精鋭による実技中心の教育を徹底した結果とも言えるが、専らCOIL型教育による個別指導とも捉えられ、事業経費の規模に対して目標数値の低さが懸念される。また、本事業の本来あるべき成果は、本取組を核として日米間、さらに将来的には国際社会でのゲームクリエイションのフラッグシップ機関となることにあるものと考えられる。本事業では、そのような発展性と具体的な方策を認識した積極的な取組を期待する。

最後に、今回本事業に選定されたことを受け、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。